平 成 ２５年 ３ 月

[配布先：全組合員]

市 場 情 報

日　時　　平成２５年３月８日 （金） １２時３０分～１４時３０分
場　所　　鉄鋼会館７０６号室
出席数　　酒 匂 委員長他　１６名（最終頁参照）
経　過

1. 酒匂委員長挨拶

舵取りはより慎重に

シャー関連の需要は、出そうで出ない話ばかりで、期待外れの状態が続いている。この間、メーカー販価の値上げ発表が相次いでおり、今回はコストアップ要因等から不退転の決意で臨んでいるようだ。しかしここへきて海外の厚板市況は中国要因等で下落傾向にあり、決して芳しい状況にない。また、高炉メーカーは5月から6月にかけてミルの定修を予定するなど、蛇口を絞める姿勢を打ち出している。当分の間我々シャーを含め、ユーザーとの間でギクシャクした雰囲気が続くだろう。夏場以降、大型の建築案件や、橋梁も徐々に上向いてくるだろうが、先行き需要の見通しは、いつでもそうだが、不透明感があり、いま一つ判然としない部分が残る。内外情勢が一段と不安定さを増す中で、シャー業者にとってしばらく覚束ない足取りで右往左往する場面が続くかもしれないが、組合員各位においては、マーケットの動向を良く見極めて、より慎重な舵取りをお願いするしかない。

２．各地区の需要動向

北海道

今年は『建設需要復活元年』

北海道に於ける一大イベントである第６４回「さっぽろ雪まつり」は先月上旬、来場者数 236 万７千人と、‘11 年に次ぐ過去３番目の多さとなり、大きな経済効果をもたらし盛会裏のうちに幕を閉じた。

一方、相次いで発達した低気圧が北海道を通過し、各地で近年まれにみる多積雪の下、時には超猛烈な暴風雪を発生させた。とりわけ、今月 2~3 日の暴風雪では、道東や道北地方の道道 124 路線 1,800 ｷﾛ・ﾒｰﾄﾙにわたり通行止めとなり 73 台の車両が立ち往生した。地元住民も想定外の地吹雪により、不幸にも 9 人の方が車に閉じ込められ一酸化炭素中毒で、あるいは車から放れホワイトアウト状態に見舞われ亡くなった。

また、屋根の雪下ろし中の転落や落雪事故も多発している。雪国生活ながら改めて冬期間の厳しい自然環境を再認識している。

ちなみに、札幌市の除雪費１９４億円は、雪と共に消えてしまった。

北海道地域の建築関連の価格構造は、ゼネコンの過当競争で低価格落札に伴うシワ寄せがファブリケーターやシャーリングなど下請け業に波及している。この低価格受注の影響は今後しばらく残りそうだ。

鉄鋼メーカーでは、陥没価格の是正による採算改善を急いでおり、再生産可能な適正価格の実現に向け不退転の決意で、その動きを強めている。

自由民主党が３年ぶりに政権を奪還し、アベノミクス実現への期待が膨らみ円安と株高が急速に進み、消費者の購買意欲や企業家の経営心理も改善されつつあるようだ。

ファブやシャー業界にとって、これまでは余儀なくされている低価格受注や粗利益の低下が緊急かつ、最大の事業課題である。早急に価格水準を引き上げ是正し採算面での改善を進めたいところ。悪循環からの脱却に向け、業界挙げて安値基調の払拭へ気を引き締めひと踏ん張りしなければならない。

【鉄骨】建築着工統計による 2012 年１月～12 月の鉄骨重量の推計は、累計 124,100 ﾄﾝ（前年 116,300 ﾄﾝ）で、対前年比 6.7%の増加となった。

需要動向の先行指数となる同年１月～12 月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量は、トータル 132,584 ﾄﾝで（前年 114,414 ﾄﾝ）前年実績に比べ 15.9%上回った。’13 年 1～2 月は 22,964 ﾄﾝで（前年 27,439 ﾄﾝ）、対前年比 83.7%となっている。

地元ファブは、昨年に相次いで着工され建設工事が本格化している著名 3 物件（三井 JP ビルディング建て替え、北海道新幹線函館車輌基地新築、札幌競馬場スタンド改修）、このほか、動き出した倉庫や店舗などに取り組んでいる。

新年度は、JR 旭川ターミナルビル、新幹線木古内・新函館駅などの発注とともに、首都圏をターゲットとした本州の大型鉄骨物件への対応によって、Ｈグレードを中心にＭグレードまで、ほぼフル操業が続いている。

先行きの見通しは、道央圏では再開発事業や大型店舗などが計画されており、需要環境は久し

ぶりに明るい。

他方、十勝をはじめとした道東や道北地区では、現在冬場の不需要期といったこともあり、全体的に低水準で低操業を余儀なくされている。今後、食品加工や農業関連、大型物販店や物流施設が計画されており、具体的な事業推進が期待されている。

鉄骨業界においても、鋼材の値上げを中心としたコストプッシュによる赤字から脱却し、採算確保に向け「選別受注」の出来る周辺環境が整ってきている。是非、潮流に乗り遅れないよう再生産が可能な価格を勝ち取ってほしい。

【橋梁】今年度の国や道、各市町村の発注の橋梁需要は、合計 4,000 ㌧弱で（前年度 22,000 ㌧）前年度比 20%弱と大幅に縮減した。

ファブ間で受注量の格差偏重はあるが、工場稼動は運営面で一段と深刻な度合いを増している。こうした窮状を鑑みゼロ国・補正予算による早期発注を期待していたが、結局、見事に期待はずれに終わった。

’13 年予算は、‘12 年度大型補正予算に引き続く 15 ヶ月予算の編成。「アベノミクス」に基く緊急経済対策を柱とした防災・減災や老朽化対策を中心とした公共投資の増額実現のあかつきには、新年度に 10,000～15,000 ㌧の発注が期待されている。

端境期対策としては、’12 年秋（’11 年度第 3 次補正予算）までに設計が完了した長大橋 29 橋を含む 62 橋の老朽化による延命・耐震対策や補修・補強を施す落橋防止装置や鋼製床版工事などの、早期発注がより一層強く望まれている。

【切板】道内における切板需要構造は周知の通り建築関連や土木・橋梁が主体である。

橋梁については、前述の如く非常に厳しい情況である。建築向けは、昨年下期から動き出した著名 3 物件とともに、物販店や物流施設に加え、首都圏や周辺都市の建築物件の加工などによってＨ・Ｍグレードファブを中心とした稼動に支えられ安定した稼動を維持している。

現状の受注加工の内容は、中小型鉄骨のガゼット・プレートが主体であり、短納期物件や小ロット多品種・小物・小単重・型や異型対応が中心となっている。そうした操業面でのボリューム低下に伴い、生産数量が減少した反面、一部では残業も必要といったアンバランスな稼動情況となっている。

価格構造は、ゼネコンの過当競争から波及する安値物件落札の常態化。このシワ寄せがファブやシャー業界などの下請けへ深刻な影響を及ぼしている。現状は安値基調から脱出し得ていないが、販売価格の底値は確実に切上がっている。

つれて、シャー業界を取り巻く環境もいまだ不明確であり、極めて厳しい情況に置かれている。鉄鋼メーカーは、陥没価格を引き戻し採算性を見直し、再生産可能な価格体系への進展に向けた

強い対応をみせている。

緊急経済対策による公共投資に加え、民間需要では全国主要都市での大型再開発の着工ラッシュが期待され、「建設需要復活元年」といわれている。

道内でも、昨年からの引き続く著名大型物件の加工が本格化している。新年度は、旭川ターミナルビルや北海道新幹線の駅舎建設や商業施設、物流施設など相次いで大型物件の着工が期待され、選別受注ができる需要環境が整ってきた。

2 年連続して切板値上げによる適性工賃と、適性利潤の確保は残念ながら頓挫した。今年こそ鉄鋼メーカーの適性価格是正への取り組みと、アベノミクス経済効果を信じて「適性価格での販売」「採算確保」の 2 大要諦の具現化に向け全力投球しなければならない。

(玉造・西村　孝治)

東　北

課題山積の中で復興需要が目に見えてきた

仙台駅東口再開発が具体化し、去る 2 月 27 日に起工式が行われた。総工事費 28 億 7400 万をかけ商業施設、ホテルなどを建設。更に幅員 6mから 16mに拡幅する自由通路も併設する。

商業施設は南棟 6F 北棟 B1/4F で自由通路と併せ 2016 春完成の見込み。ホテル棟 B1/14F は 2017 春完成見込みで鉄骨総量約 11500 t の東北ではビッグ PJ である。

仙台駅は、現在 1 日 12 万 9000 人が利用、首都圏などからの集客を目論み、かつて「駅裏」と呼ばれた面影はなく 2015 年度の地下鉄東西線開業に合せ東北の玄関口にふさわしい駅となる。

また仙台南地区の長町駅前再開発も進み、既に市立病院・ショッピングセンターの建設も始まり、IKEA、イオングループ、大型パチンコ店の出店も決まり期待出来る。ただ、東北他県においては大きなプロジェクト計画が乏しく、格差が出ている。

東北での建築着工面積は、2008 年度を上回る件数となったが、平均面積が 100 ㎡強と、いかに小規模の案件が多いかが分かる。

関東地区・名古屋地区の大型 PJ 始動に牽引され、東北の建設業も盛り上がりをみせて欲しいところである。

震災復興関連は、相変わらず土木中心で、人手不足も解消されておらず、特に型枠・鉄筋工不足、運送車両・ドライバー不足に拍車がかかっている。当工場の門扉が 3 回に亘り接触された。

そもそも建設職人の不足は、今に始まったことではなく、震災前からかつて 500 万人居たとされる職人がどんどん退職し、阪神の復興と比較し遅れている要因の一つと思われる。

それでもようやく大型水門建設や護岸整備も着実に進行しており、さらには内陸部も新設橋梁、耐震工事の出件数の増加など徐々に復興需要が目に見えてきた感がある。

業界における各社の稼動は、年末から 2 月までは低操業、3 月以降は少しづつ回復するとみているがフル操業には至らない。加えて記録的な大雪が現場の遅れ等に繋がり影響を及ぼしている。

この原稿を書いている今日も青森八甲田付近は積雪 5m56ｃｍの記録更新のニュースが入ってきた。春が待ち遠しい。春遠からず、安定操業を強く望む。

（ＪＦＥ 鋼材東北・大柴宏和）

東　京

建産機、ムードやや好転

昨年夏頃からの低迷に苦しんでいた建産機系シャーに、一部ではあるものの回復期待が持てそうなムードが出始めている。　超円高からの脱却、復興需要の本格化期待、建築物件の増加見込み等、これまでになかったプラス要因が顕在化しており、今後の受注回復に期待したい。

しかしながら、需要家の海外シフトの動きは止まることは無く、生産移管がこれからも進展することを考慮すると、もろ手を挙げて喜べる状態ではない事も事実である。　また欧州危機も終息したわけではなく、今後の展開次第でどちらに転ぶか不透明であり、落ち着かない状況はまだまだ続きそうである。

【建設機械】　１月の統計では前年比６ヶ月連続でのマイナス。　国内向けは全般的に堅調で 11.9%の増加となっているものの、海外向けは中国やその他新興国の不振が大きく足を引っ張って合計では△18.7%の大幅な落ち込みとなった。

・油圧ショベル　　国内の販売は被災地向けも販売増に寄与し前年比でプラスになってはいるが、輸出の落ち込みにより合計で△32.4%。　しかしながら、急激な生産調整の後も低迷が続いたショベルはここにきて様相に変化がみられる。　要因は排ガス規制・消費税適用前の駆け込みと復興需要の本格化期待である。　ユーザー各社は中型機種をメインに増産計画を立てており部会シャーも今後は受注増となる模様。

・建設用クレーン　　ラフテレーンクレーンは排ガス規制前の駆け込み需要（切板は１月で終了）後の反動減もあり、足元は１２月までのレベルからみると△30%の受注。　しかしながら、想定以上に現行機種の販売が好調で、製品在庫不足という異常な状態となり急遽新型移行後は増産計画となっている。　切板に反映して来るのは４月以降。

クローラクレーンは長期に亘る低迷が続いていたが、内外の製品在庫調整もほぼ終了し、北米向けが回復に転じている事や、円安による輸出の回復期待や海外調達の国内回帰の実例もあり回復基調となったと言える。

【鉱山機械】 鉱物資源需要の減少と価格の下落による開発の縮小から、鉱山機械の売れ行きは激減しており、生産調整は長期化しそうな感がある。 特にインドネシアの落込みは大きく、シェールガスに起因する燃料炭価格下落の影響で当分の間期待できそうもない。 大型ショベル一台にダンプを４～５台使用するだけに鉱山機械としてのショベルも減産となっているが、ダンプの落込みはさらに激しく前年比約△70%となっている機種もある。

【重 電】 国内での原発案件がほぼ停止している一方で、火力発電関連は内外ともに増加傾向となっており、受注決定や応札中の具体的案件が目白押しとなっている模様。ただ肝心なのはどのメーカーが受注するかである。 随意契約から競争入札へと移行し始めているだけに受注決定まで部会シャーの気が安まる事は無い。 また円安の為替効果はまだ見られないが、海外調達の一部でも国内回帰してくれるよう期待したいものである。

昇降機のエレベータは足元の加工量がほぼ前年並みを確保できているものの、残念ながら来期の見通しは△10%となっている。 建築関連がこれから本格的に動き出す見込みではあるが、エレベータ設置は最終工程となるため１４年度以降に受注増となると見られる。

【板金・鍛圧機械】 工業会発表の１３年度受注予測は、鍛圧、板金共に減少の見通しとなっている。 自動車向け大型プレスは堅調で長期に亘り工程が埋まっている一方で、中・小型の汎用プレスや板金機械は、受注そのものの不振と海外での生産比率向上の影響で先行きは悲観的な見方が広がっている。

【フォークリフト】 この分野はメーカー再編例に見られるように、リーマンショック以降低迷が続いている非常に厳しい業界である。 １２年度の生産レベルでは昨年比△10%といった状況で、来期の計画でもわずかではあるが減少しており、暫くの間低迷は避けられそうもない。

【ﾀﾞﾝﾌﾟ・ﾄﾚｰﾗｰ】 １０ﾄﾝクラスのダンプは各メーカーともフル操業が続いている。 排ガス規制前の駆け込みと被災地向けの需要から長期に亘り堅調さを持続。 また重機積載用トレーラーも絶好調で、この部門の加工量は確実に確保できそう。 北米向けの３０ﾄﾝ・４０ﾄﾝダンプの生産が回復しているが、これは排ガス規制前の作りだめの要因が

強いと見られ、先々の反動減が不安である。

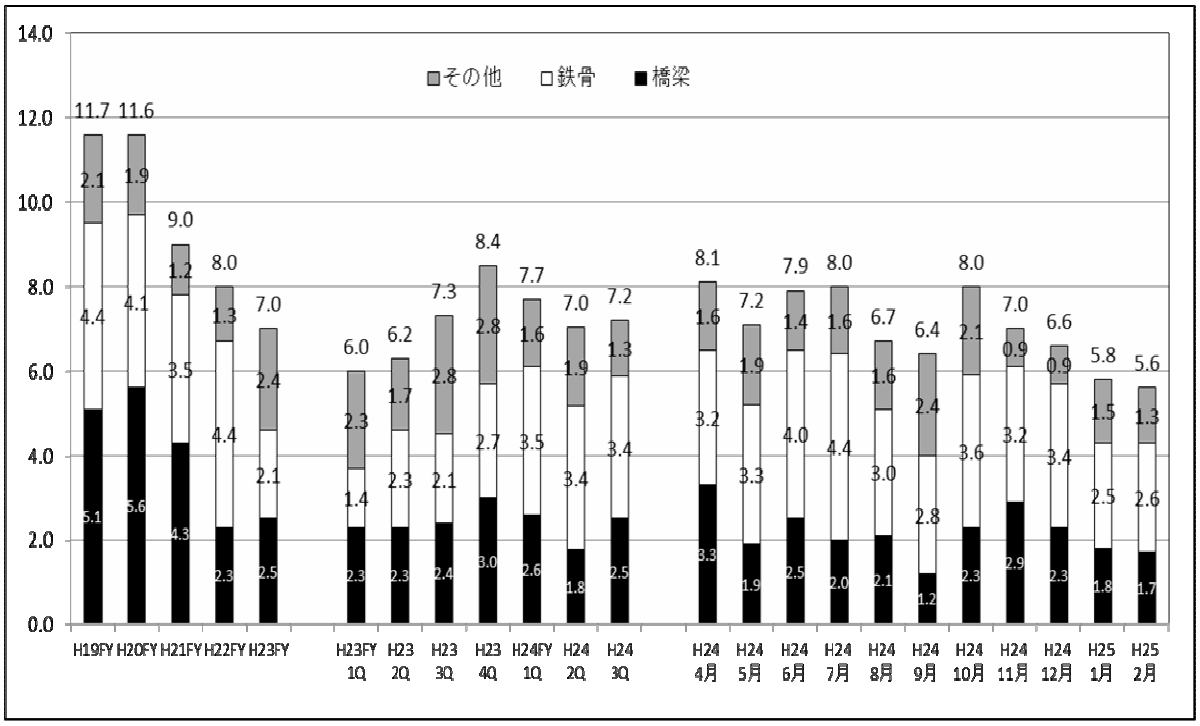
【産機　店売り】　全般に前年比 15%前後落込んでいる模様。　競争が一段と激化しているだけでなく、需要家からの価格・品質その他諸々の要求も増してきており対応に苦慮している。　また製鉄メーカーの素材価格改定の動きもあり、シャーの板挟み状態という困難な局面はまだ続く可能性がある。　ただ昨年末から感じ始めている明るいムードもあり先行きに対する期待感を持って進みたいものである。

（ニューエイジ・池田啓志）

東　京

建設需要、夏場以降へ

1．規格建材部会加工量推移（千ﾄﾝ/月）



2．これまでの実績

全体　主力の建材分野向け加工量は、11 月の 6.1 千ﾄﾝをピークに月を追って減少。2 月実績は、4.3 千ﾄﾝと極低レベルであった昨年平均をも下回る状況。

その他の土木案件も規模が小さく、全体加工量の底上げには至っていない。

橋梁　本年度橋梁開札量は、12 月末時点で 157 千ﾄﾝ、足元 2 月末時点で 204 千ﾄﾝと従来通りのボトムヘビー型。

また、開札された案件には、設計工期を要するNEXCO物件(2月末時点：79千ﾄﾝ／204千ﾄﾝ)も多く、加えて落札ファブが関西以西である物件も多いことから、当部会メンバーの切断量は、低レベルにて推移。

鉄骨　首都圏を中心とした大型案件の着工遅れの影響により、Sグレードファブは引き続き仕事量が低迷。シヤ切断量も、３千ﾄﾝ/月を下回る状況。
一方、中小型案件（物流、病院等）は件数も多く、足元Hグレード以下のファブは繁忙の様子だが、形鋼類中心であり、シャー切断量規模増加への寄与度は限定的。

３．今後の動向

全体　橋梁の本年度案件加工や、大型首都圏プロジェクトの地下部加工が開始される見通しであることから、シャー加工量は緩やかながらも回復する見通しである。但し、橋梁全体規模（”本年度横這い”）や、Sファブの山積み増加は、本年夏場以降の見通しであることから、シャー加工量の本格的な回復は、2/四期以降の見通し。

橋梁　新年度当初は、本年度案件(exNEXCO)の加工が開始されるなど、一部ファブでの加工量回復が見込めるが、全国入札規模が、本年度並みとの見通しであることから、大幅な数量回復は期待できない状況。
早期開札量増加に期待。

参考1〈全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	上期	下期	H24FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H25FY
橋梁入札量	417	324	305	283	96	171	267	100	150	250	28	89	117	47	86	133	250

鉄骨　一部の大型プロジェクト地下部加工が開始されることから、4～5月以降は、足元規模からの増加が見込まれるが、地上部含めた本格的な加工開始時期は、本年夏場以降との見通しであり、シャー加工量回復は早くても2/四期以降の見通し。

参考2〈全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	上期	下期	H24FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H25FY
鉄骨需要量	642	589	391	418	224	207	431	239	221	460	116	120	236	119	102	221	457

（富士鉄鋼センター・三浦潔司）

東　京

一般店売りは変化なく低調のまま

浦安地区の一般店売りシャーの状況は、需要面では１２月以降も変化なく低調に推移している。１～２月中旬までは多少上向いたが、その後の荷動きは止まり、足元閑散としている。引合いは小ロット・短納期物件が中心である。浦安地区のトラック台数も少なく、満載していない車も目立つ。全体の在庫量は減少傾向で推移しているが、耳付き板の在庫調整にはしばらく時間がかかりそうである。店売りマーケットは不透明な状況が今後も続くだろう。

（三ノ橋鋼材・角田善彦）

東　京

最悪期から脱せず厳しさ続く

この半年間、建築需要は好転する事も無く、新しいネタも特に見つからず、雑感となってしまいますが報告させて頂きます。

昨年末の与野党逆転の政権交代により安倍内閣が発足し、早速デフレ脱却からの経済再生、そして東北災害復興を最優先課題とした政府主導の施策を開始した。日銀による金融緩和策を強行に行い、インフレ目標２％を明示した政策発表を行うなど、スピード感を伴った具体的な動きとなっている。

また、補正予算の大幅な積み増しを行い、新年度の予算編成も大型となり、経済再生、景気回復の実行を僅かな時間で確実に行っている。

既に、為替も超円高から円安に動き始めてようやく足かせが外され、円ドルで９３円～９４円となっており、今後１００円を目指す動きとなっている。株価も日経平均で１万円台を回復した後、１２，０００円を窺う情勢となっている。大手企業にとっては業績回復に向った動きで歓迎されており、間違いなく空気が変わり今までの閉塞感を払拭しだしている。

兎も角、ここまでは国民にとっては久々に好感が持て、準備万端と言えるのではないでしょうか。但し、これからが一番重要な局面で、実体面の浮揚はこれからの政策にかかっており、残念ながら足元の状況は非常に厳しく、今迄に無いくらいの最悪期となってしまっている。

鉄骨建築は、都心部の大型再開発にしても地下部の動き出しが５月～６月頃と見込まれていて、地上部本体は７月以降となりそうである。中小物件も本格化するのはそのタイミングと見られている。このように今のところ全体的に出遅れとなっているが、今年度の建築鉄骨総量は４７０万トン以上と前年比増が見込まれている。

橋梁については相変わらず２５万トンと言われているが、これに東北被災地の太平洋沿岸につ

いて新規発注（１５万トン）が予定されており、これがプラスアルファになることや、さらには既存橋の補強を含めた修復工事も急ピッチで行われるようで、いづれにしても前年度比増が暫くは続くのではと期待されている。

今はまだ､絵に描いた餅状態であるが､もう既に人手不足による工期の確保が難しくなるなど、問題が出始めている。ダンゴ状態でいっぺんに発注されて、消化不良を起してしまう事は避けたい。また、メーカー値上げのスケジュールも見えてきており、今後、母材価格の上昇分をユーザーに確実に転嫁していくことは大変な作業である。適切な判断で早い時期からの動き出しがある事を願いたいものです。

（丸東興業・秦弘志）

東　海

希望の光の中で

昨年末の政権交代後、御存知のように円安株高となり、輸出企業に光が見えてきました。

輸出関連の大手企業は、為替差益により利益を上方修正し、多大な利益を計上して、我々中小企業にも景気好転への期待感が近年まれになく盛り上がってきました。

賀詞交換会には多くの人が訪れ、年頭の挨拶なども明るい話が多くて、期待の出来る年明けとなりました。

気持ちは明るいのですが、現実はなかなか厳しく、東海地区の産建機向けの店売り、ヒモ付きシャーの 12 月から 2 月の動向は基本的には前回と変わらず、大きな動きはありませんでした。

店売りシャーの 12 月は、本来年末に向かい、少しは駆け込みでバタバタしなくてはいけないのですが、それもなく落ち着いた年末となり、休日の関係もありますが、今年は例年以上に、正月休みを長く取る企業が多くありました。

年が明けると、原材料高を見越して、駆け込み受注が少し出てきて、店売りシャ-業者によって１月や２月と時期の多少のズレはありましたが、忙しい時期もありました。

金型関係は、仕事の出ている企業とそうでない企業との差があって、ついている自動車会社によって左右されているみたいです。

一度タイなどで製造すると決まっていた金型も、為替の関係で日本に戻ってきた物もあり、その代わり、タイでは寸法精度のゆるい中国の金型の仕事をしたりしているみたいです。

自動車会社の設備投資も海外向けの設備がなくなったとか、九州などでは少し出ているようだと言う話題は出ていましたが、近々では地元には現実めいた話はありません。

只、去年もありましたが、秋口には自動車の設備が出そうという話もあります。

消費税値上げがらみかも知れませんが、クレーンの乗せ代えは相変わらず好調なのと、耐震用の切板や復興関連や住宅の建替えなどに使う木工のプレカット用の専用機も好調に出ています。

後は、メガソーラーに使う切板なども出ていますが、全体が潤うレベルではありません。

一方、ヒモ付きシャーも先に話した様に前回の報告とあまり変わりません。

建機　リフト

前回報告したとおり、3 月の生産台数はピーク時の 10%ダウンとなり、推移しています。

しかし、来年度の生産計画は一応今年の 4%アップとなっており、少し安心していますが、状況によっては下方修正されるかもしれません。

クレーン　シャベル

前回同様、復興関連の小型のくい打ち機は好調ですが、鉱山用の大型建機は相変わらず低調のままです。

トラック

10ｔクラスのトラックは 12～2 月は前回同様好調をキープしており、今年度中はこのまま推移していく予定です。

来年度の計画はまだ出ていませんが、大幅に落ちることはないと思います。

鉄道車両

前回同様、国内の仕事は少なく、北米向けや台湾向けの仕事がほとんどで、満足な仕事量は確保出来ません。

産機　鍛圧プレス

前回報告した時は、３月まではある程度の仕事は確保しており、３月以降は国内物が一巡して生産が落ちそうだと報告しましたが、３月以降は取り合えず今年度並みの生産量が見込まれそうという報告に変わりました。

その他工作機

ベンダー・レーザーや切削機などは、前回同様低調で中国やヨーロッパの落ち込みが大きいです。

しかし来年度、輸出に於いてアジアや北米を中心として、国内は震災復興関連に

よる引き合いが増えそうです。

引き合いが増えても、ユーザーは M&A や生産の海外現地化が加速しており、それに伴い切板の数量が落ち込む事が懸念されます。

造船　デッキクレーン

前回の報告と同じで、仕事は半減したままになっており、来年度の予定も立たず、雇用調整金も視野にいれています。

昇降機

以前と同じ生産台数でも、部品自体が国内に残っているものが少ないので、12 月～2 月も基本的には、国内の切板は少ないままですが、2 月は海外の大型物件が少し出て、切板もその分増えました。来年度は、今年度と生産台数は余り変わりませんが、海外に出て行く部品の量と国内でしか出来ない大型物件の部品の量のバランスで、国内切板の量が決まるので、まだなんとも言えないのが現状ですが、基本的に増えていくことはありません。

とても明るい感じで始まった 2013 年ですが、仮儒で一時的に仕事はでましたが、当然のことながら、まだまだ仕事自体に盛り上がりはありません。需要が出てくる前に材料の値段が上がってきたので、これからは値段も転化していかなくてはいけませんし、金融円滑化法の期限が迫っているので、与信問題も大きく浮上してきました。

（鈴将鋼材・鈴木康司）

東　海

建築案件の本格始動に期待

建材関係は、小ロット・短納期物件が中心で、残業対応に追われている。日々の繁忙感はあるものの、相変わらず売上実績が上がっていない。シャーの稼働は３Q 並みの７０～８０％程度。切板の小型化や客先の工程の遅れから切板発注がまとまらずバラバラ出てくるなど、これらが日常化しており、コストアップ要因になっている。足元の在庫量は、工期のズレ等により概ね４カ月程度で、増加傾向で推移している。計画はあるものの、需給ギャップが大きいため、数量確保が最優先となっている。新規案件は材料アップに伴い多少見積りを上げているようだが、あまり強気に出られない状況。また、ゼネコン筋の話では、いずれ計画通り物件が動き出した場合、受けきれない事態もありうるとのことだ。名古屋の３大建築案件、病院、物流倉庫などが本格化する時期になってきており、その発注に期待している。　（中部鋼鈑・南　信年）

大　阪

回復の兆しなく需要低迷

１．全般

（１）　需要

元から仕事は少ないが、年末あたりから、さらに仕事は出ていない感じ。

建機は数量減少後、回復する兆しは見えず。

建築向けは、大型少ない。H クラス FAB の仕事は埋まっているが、構造的にシャーに出てくる切板量が多いわけでない。

（２）一般店売

材料価格上昇を見越した引合いや見積りは出ているが、足元は仕事はあまり出ていない。

今後、出てくるかはまだ見通せず。

２．需要部門別

（１）橋梁

橋梁入札の開札は進んでいるが、受注できている FAB と手持ちがなくなっている FAB とはっきりしている。

専業橋梁 FAB が受注できていないため、シヤ業界への発注は少ない。

（横河ブリッジは受注しているが、スケッチ FAB のため、あまりシヤ会社へ仕事が出てこない）

（２）鉄骨

大阪地区は、今後の大型案件少なく鉄骨需要ということでは期待できない。

倉庫やショッピングセンターなどのゼネコンが安値受注した案件が今後出てくると

予想されており、建築向けの切板は価格的にも非常に厳しくなる。

材料単価が上がるなかで、さらに対応できない状況になる。

（３）建機

数量が減少後は、低位安定で仕事出ている模様。

一次請けシヤ会社が納期間に合わずに、外注手配することはなくなった。

逆に余力が出ている模様。

（４）産機

産機・SPOT などは、相変わらず少ない。小ロット・短納期。

（日鉄神鋼シャーリング・浅野博之）

（玉造・棚橋浩司）

九　州

新年度入り後の建築案件に期待

・シャーリング各社の稼動は低い状況。メーカーの母材値上げにより安値払拭の意識はあるものの、仕事量が無いため安値受注に走るケースも見られ、全体的な底上げには至らず、横ばいの市況となっている。但し、先行きの案件に対しては各社とも唱えを上げており、実質的な刈り取りにはもう少し時間を要する。

＜建築＞

昨年の第３Ｑでは物流倉庫・ショッピングセンター・官公庁案件等で繁忙であったが、１～３月は物件の端境期でファブの稼動は低い状況。

大手ファブは九州に仕事が無いため、本州物件を取り込んでいる。

２０１３年通年では昨年以上の案件が出る見通しで期待できる年と言えるが、案件は第１Ｑから出件され始め徐々に忙しくなってくる見込み。

今年度の九州最大の案件（大分駅再開発）では鉄骨２３千Ｔが見込まれ、短工期のため一時的に超多忙となる可能性もある。

＜土木＞

公共工事請負額は１０ヶ月連続増となっているものの、一部の鋼矢板等を除けば鉄を使う工事が少ない状況。

集中豪雨対策向け工事ではコンクリートメインの工事で鉄はあまり使われていない。

橋梁案件も大型工事の受注は無く低位横ばいの受注状況となっている。

＜産業機械＞

自動車向け搬送装置に多少の動きはあるがその他は低調。ただ、メガソーラ案件だけは案件も多く、フォーミングメーカーや切断・穴開け

加工業者は忙しくしており、メッキ価格も高騰している。

建機メーカーは１～３月は生産調整をしているが、４月以降増加に転じる計画（＋２０％）となっている。

＜造船＞

一部造船メーカーを除き全般的には低い稼動となっている。各社まちまちではあるが平均すると６０％程度の稼動となっている。

このところの円安効果で赤字巾が減少しているが、ドル建て受注価格そのものが下がっており、新たに受注しても赤字に変わりは無い。

しかし、仕事を埋めるため安値受注をせざるを得ないケースも出てくると思われる。

＜シャー業者＞

１月の出荷量は３ヶ月連続で対前月比減少、シャーの在庫量は減少しているが、在庫率は増加している。

相変わらず小ロット・短納期で工場はばたついているのが実態である。

（豊鋼材工業・橋本勝美）

３．髙木理事長挨拶

「本日の報告をうかがって、シャーを取り巻く需要環境は、予想通り冴えない大変な状況に直面していることを改めて痛感した。

①昨年政権が代わり、急ピッチで円高是正や株価が上昇しているが、これが即実需に結びつくことはない。これまで政府等が２０年間何も手を打たず、放置してきたためだ。需要は今年前半はこのままで、年後半から徐々に回復すると考えるしかない。しかも出方は限定的かつ極小的である。今後攻めるのか、守るのか、個社毎に決めるしかない。

②これほどひどい１～３月期は予想できなかった。かつてないほど落ち込んだ需要が、Ｖ字回復するとは想定できない。徐々に後半以降回復するとみるべきだ。人手不足とダンゴ発注が重なり、それに対応しきれない場合でも、むしろ物件が長く続くと理解するべきだろう。

③橋梁については、設計・加工能力におけるボトルネックがいろいろな局面で発生している。その背景には、かつての６０万㌧時代から昨今の２５万㌧規模に需要が縮小する間に、専業橋梁ファブの倒廃業もあったし、ソフトランディングの形で構造調整が徐々に進展していることがあげられる。こうした中、ボトムまできた橋梁計画が見直され、強靭化計画もあり、いづれ需要が底を脱する時期が必ず来る。その時はあまり爪を出さず、“そんなもんだ”と冷静に受け止めるべきだ。

④建産機系の動きが気になる。建機工業会の１３年度生産見通しをみても、かなり低めの数字になっている。中国・欧州等の経済動向を踏まえ、景気の戻りがどのようなトレンドを描くのか。また近年生産拠点の海外シフトの流れが定着化している中で、今の円安下で再び国内に回帰する動きが復活するとは考えにくい。これら循環的・構造的状況を勘案すると、関係シャーの経営は非常に難しいと思う。

⑤組合統計をみても、２月時点では、切断量見合いの在庫調整が充分進展していないのではないか。とくに建産機系シャーの在庫が昨年夏以降、需要急減により高止まったまま推移していると推察される。シャー各社とも出来るだけ軽い体になって新年度を迎えましょう。

⑥材料の値上げ分以上に転嫁できないとすると、多分鉄骨系シャーの経営は成り立たないだろう。

昨年から組合の分科会で検討を行っている「品質証明ガイドライン」をトリガーにして、不合理な取引の改善を目標に、今後、関係先に協力要請、アピールを行い、共同歩調で活動してまいりたい。引き続き組合事業に対する皆様のご協力とご理解をお願いしたい。」

（参考） ≡ 出席者 ≡ （順不同敬称略）

委員長・ 酒匂 （京浜産業）
ゲスト・ 髙木（理事長/富士鉄鋼センター）
東 北・ 大柴（ＪＦＥ鋼材）
東 京・ 池田 （ニューエイジ）、
角田 （三ノ橋鋼材）
三浦（富士鉄鋼センター）
秦 （丸東興業）
笹川（山惣熔断/ゲスト）
福原（村山鋼材/ゲスト）
小河原（神鋼鋼板加工/ゲスト）
東 海・ 鈴木 （鈴将鋼材）
南 （中部鋼鈑）
大 阪・ 浅野 （日鉄神鋼シャーリング ）
棚橋 （㈱玉造）
九 州・ 橋本 （豊鋼材工業）
事務局・ 柘野

４．次回の開催日時・場所

第１５７回市場委員会
平成２５年６月７日（金）１２時 大阪鉄鋼会館

以 上